（第２号様式）

令和５年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立上矢部高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和2年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 15 日実施）	総合評価（３月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的な学習と、進路実現のための精選された教育課程編成を行う。また、各教育活動の相互交流が可能な教育課程の編成を行う。	①学習指導要領の理念を受け、本校に合った教育課程の運用を図る。生徒の個性・適性や、進路実現に向けた選択科目の精選を行い、生徒の学習の機会の補償を重視した教育活動を展開する。	①生徒に求められる力について職員の共通理解を図り、教育課程を運用する。科目選択の指導時に生徒に趣旨を理解させる。	①本校に合った教育課程を運用し、生徒等に発信できたか。	①普通科一般募集生、普通科特別募集生、専門学科美術科の3つの教育課程を実現可能な形で編成することができた。 また、次年度に向けて、各学年将来を見据えた科目選択について説明会を行い生徒に発信した。	①令和5年度入学生の3年次の教育課程において、芸術科目について検討事項が残っており、今後議論を行い確定させる必要がある。	①生徒へ情報発信を行い、学校と生徒の共通理解を積極的に行うことは大変評価できる。 「普通科と美術科の充実」「ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育の推進」の相互交流等での新たな学びを創り出してほしい。	①本校の特色を鑑みた教育課程を運用することができた。ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育も含めた具体的な運用と進路実現に向けた選択科目の精選が課題である。	①ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育を含む教育課程の編成について、最終調整に向けて検討を進める。併せて進路実現に向けた選択科目についても検討を行う。
		②生徒のわかりやすさに配慮した組織的な授業改善や、主体的な学習習慣の育成に取り組む。	②主体的･対話的で深い学びの視点、及びインクルーシブ教育推進を踏まえた授業改善を一層推進し、教員研修会等の実施や内容の充実を図る。	②年間を通して組織的な授業改善に取り組む。ICT の活用の推進や授業の構造化に取り組む。	②主体的・対話的で深い学び、及びインクルーシブ教育推進につながる授業改善ができたか。	②前期、後期と2回設定し、特に後期では、授業研究を集中的に行う機会を設け、ICT の活用をテーマとして教科ごとに 14 名の研究授業を行い、組織的な授業改善の取り組みを行った。	②12 月に実施する「生徒による授業評価」を分析し、1 人 1 台パソコンを効果的に用いた授業方法についての研究を今後行っていく。	②横断的、組織的な授業改善も回数、PDCA ｻｲｸﾙを重ねると良い。ICT の活用により、就職希望者にとっては、志望職種の幅も広がる。各教科の ICT 活用等は、今後重要な教育課題である。研究授業における ICT を活用した授業改善等の取組は興味深い。	②組織的な授業改善の取組を推進できた。1人1台端末を踏まえた ICT 活用の効果的な活用が課題である。ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育を踏まえた授業改善の組織的な体制と運用も継続課題である。	②「生徒による授業評価」を分析し、ICT を効果的に活用した授業研究を推進する。研究内容を充実させ、教員間で共有していく。
2	生徒指導 ・支援	①生徒一人ひとりの個に応じた支援・相談体制の充実を図る。また、基本的な生活習慣の確立を図る。	①生徒一人ひとりの困難さやニーズに合わせた支援体制、相談体制の充実を図り、課題の解決にあたる。	①規範意識を高め、ルールやマナーを守る指導を行う。登下校指導、遅刻防止指導を行う。支援を必要とする生徒に支援を行う。	①基本的生活習慣が改善されたか。教育相談連絡会やケース会議を、支援の必要な生徒に生かし、課題の解決につながったか。	①登校指導を1学期に1回実施した。日常の生活指導に加えて頭髪指導、遅刻指導を定期テスト後に学年ごとに4～5回実施した。教育相談連絡会を 26 回実施した。生徒情報共有会議を学期の始めに計2回実施した。延べ約 70 名がｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを受けた。	①近隣から登下校のﾏﾅｰについて苦情が数件あったが、お褒めの言葉をいただく場面もあった。本人の特性による課題、家庭環境の課題、人間関係のつまずき等、ますます課題が多様化している。	①ｺﾛﾅ禍ではあったが生徒の達成感を得られる場面設定に尽力いただいたことは評価できる。今後も挨拶運動･部活等の活性化等を図り、生徒の達成感を育んでほしい。	①定期的な生活指導の実施し、教育相談におけるSCとの連携や支援体制の充実が図られた。多様な困難を抱える生徒への支援体制の充実が課題である。	①継続的･計画的な生徒指導の実施。教育相談ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、担当者の更なる増強。SC や SSW 等外部機関との連携の充実。
		②生徒が主体となった部活動、学校行事等を推進する。	②特別活動等、生徒が主体的に活動できるよう支援し、達成感等が得られる場面を設定することで、課題解決能力の向上を図る。	②生徒主体で運営を任せる場面を設け、良い点は評価し、運営する力を身に着けさせる。	②生徒が主体的に活動し、自己を大切にする意識が高まったか。	②制約の中での生徒会行事だったが、生徒の意識調査を実施し、㋐「各種行事を楽しめたか」98.7％が「ふつう」以上で「楽しめた」と回答、㋑「達成感があったか」98.1％が「ふつう」以上で「達成感があった」と回答があった。 新しい試みとして生徒会本部役員及び部活動の生徒による「朝の挨拶運動」を実施し、挨拶の励行を啓発した。	②各種行事における感染予防対策を意識した決まりやﾙｰﾙを遵守させるなどﾏﾅｰ面の指導が課題である。 今後も感染予防に配慮しつつ生徒会行事や部活動の推進が図れるよう努める。 あいさつ運動の計画的な継続と挨拶励行の習慣の醸成。部活動予算編成等も今後の課題である。	②生徒指導、やｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ等の支援の充実に努め、多様な生徒のニーズに応じた生徒支援を推進してほしい。近隣からも生徒は非常に礼儀正しいと聞いている。先生方の挨拶も改善され、明るい学校となった。	②ｺﾛﾅ禍でも生徒が、生徒会行事や部活動に主体的に取り組み、達成感が得られるよう支援できた。挨拶運動における生徒のﾏﾅｰ等の醸成や部活動の予算編成が課題である。	②生徒会本部役員や各種委員会の生徒を活用し、今後を見据えた行事の企画立案を行う。「挨拶運動」は次年度早々に部活動勧誘を兼ねて実施。部活に会計担当を設置。
3	進路指導 ・支援	①多角的な視点を持ったキャリア教育を展開する。	①生徒の個性や進路意識の段階を踏まえ、個に応じたキャリア教育を推進し実践する。キャリア教育の視点を生かした教科指導、特別活動の指導内容等を研究する。	①生徒・保護者から情報を収集し、職員で共有する。教科指導、特別活動等とも連携し、多面的なキャリア教育を実践する。	①生徒の個性や意識を踏まえた様々なキャリア教育を実践できたか。	①進路希望調査の実施や到達度テストの実施など、総合的な探究の時間を中心に、各学年の目標に沿ったｷｬﾘｱ学習を実践した。	①教科指導におけるｷｬﾘｱ教育はｸﾞﾙｰﾌﾟから資料提供などを行っているが、その実態の把握まではできていない。	①個に応じたｷｬﾘｱ教育を推進し情報収集や研修に努めていることは評価できる。	①ｺﾛﾅ禍の限られた中でも計画的に個人面談や三者面談を行い、個を大切にしたｷｬﾘｱ教育の実践に努めた。教科指導におけるｷｬﾘｱ教育の推進が継続課題である。	①教科指導の中にｷｬﾘｱ教育の視点を生かすことについて、教員の意識化を図る。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 15 日実施）	総合評価（３月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	②生徒・保護者への情報提供の機会の充実と、相談体制の確立を行う。	②生徒・保護者対象の説明会の実施、及び面談時の進路情報の提供の機会や内容を充実させる。	②生徒・保護者のニーズに応じた多様な形態のガイダンスや指導方法を研究、実践する。	②説明会、面談等での進路情報の提供、情報発信が適切で充実したものであったか。	②1,2年は2回、3年は1回、ｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽを実施し生徒の進路意識を高めた。（指定校推薦説明会参加者は 170 名を超える） 3年生に「生徒向け進路説明会」、「保護者向け進路説明会」等、細やかな指導を実施。就職、進学に関する面接指導は、延べ 100 回を超えた。3年生の就職希望者、11 名は全員内定している。	②ｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽは刺激にはなったが、今後は、それを継続、発展させる日常的な指導が必要である。 保護者面談において、学費・奨学金の資料提供を行い、好評であった。今後も続ける予定である。	②多様なｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽの実施により、進路指導の活性化を図った。日常の継続的な指導につなげてほしい。事前事後教育の内容が課題である。連携生の進路等、連携できることもある。	②学年や生徒の進路に応じたｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽや進路に関する説明会を行い、生徒の納得いくような進路決定に導いた。日常的な指導の継続が課題である。	②ｶﾞｲﾀﾞﾝｽや説明会に至るまでの事前指導や実施後の指導を充実させる。ｶﾞｲﾀﾞﾝｽの内容を学年以外へ公開するなど、情報共有の方法を検討する。
4	地域等との協働	①地域と連携し、学校の特色を周知するとともに生徒の社会性を育成する。	①学校の教育活動を説明会や電子媒体、生徒の発表等で地域等に向けて発信し、地域との協働や地域貢献活動の充実を図る。	①ＰＴＡ等との連携した活動によって、学校の教育活動を地域に発信する。地域の活動に生徒が参加できる場面を設定する。	①学校の教育活動を地域に向けて発信できたか。地域の活動に生徒が参加できたか。	①地域の「竹灯籠の夕べ」のｲﾍﾞﾝﾄにおいて、竹灯籠作りで保護者約 15 名、生徒 23 名が参加した。今年度の地域貢献活動は、コロナ禍もあり、生徒全員が参加する形ではなく、部活動ごとに分担し地域清掃を行った。	①2年目となるイベントの参加であり、今後も継続していきたい。	①地域活動の「竹灯籠の夕べ」にPTA・生徒が参加できたことは評価できる。	①限られた中でもPTA 活動や地域連携が実施され、継続して地域行事の参加や地域連携活動が実現できたことは成果である。さらなる地域連携の模索や活動方法検討が課題である。	①感染症対策も考え、可能な限りの地域連携や地域貢献活動など、参加方法等を工夫し、生徒の活動に繋げていく。
		②地域との協働による幅広い教育活動の場面を設定する。	②地域の教育力を活用できる仕組みの充実と開拓を進める。教科「キャリア」の教育活動を地域社会において実践的に行う。	②説明会やイベント等で、生徒の活躍の機会を設定する。教科「キャリア」の教育活動を実践し、その効果を学校全体で共有する。	②生徒の地域での生き方や在り方のイメージづくりにつながったか。	②10 月･11 月に実施した2回の学校説明会では、中学生と保護者合わせて美術科は 167 名、普通科は 1163 名、全体では1330 名の参加があり、学校の魅力を発信することができた。	②コロナの影響で実施できていないが、学校説明会に生徒が参加でき、生徒から学校の様子を語る場面ができるとよい。	②上矢部ならではの特徴ある学校の魅力を積極的に発信することは職員や生徒たちの励みになる。地域連携は特に災害時に有効であると思う。コロナ禍以前にあったように生徒が率先して地域に飛び込めるよう様々な活動の機会を設定してもらえればと思う。	②学校説明会を開催し、多くの中学生保護者の参加があり、本校の教育活動の発信ができた。本校生徒の参加が課題である。 ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育ではｷｬﾘｱの授業の中で学年ごとに体験活動を行い、進路に関する説明会等を実施した。	②学校紹介の内容を充実させて、教育活動の地域への発信を改善する。 ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育では体験活動の場所の開拓を継続して行う。
5	学校管理 学校運営	①全職員の共通理解のもと人権に配慮した生徒への対応を行う。	①職員の共通理解のもと、人権に配慮した教育活動を行う。	①障害者、マイノリティに対する理解等、人権に配慮した研修会を行う。	①人権に配慮した教育活動を職員会議等で確認できたか。	①12 月に、教職員を対象に生徒との関わりにおいて自己肯定感を育てる実践方法について研修を実施した。	①受講者から、今後も自己肯定感を高められるような対応を実践していきたいという感想もあり、教育力向上に繋がった。	①学校運営としてはﾊﾗｽﾒﾝﾄや障害者ﾏｲﾉﾘﾃｨへの配慮等研修内容を含め、今後も引き続き進めてもらいたい。	①生徒の自己肯定感を育てる実践法の研修会を実施し、教職員の教育力向上に繋がった。教職員の入替りの中、継続したｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育の体制確立が課題である。	①ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育に関わる内容や人権に配慮した内容のテーマの幅を拡げ、研修会の充実を図る。
		②安全・安心で信頼できる学校環境の整備を行う。業務の効率化を行う。	②業務の効率化を進めるとともに、事故・不祥事防止に取り組む。成績処理や会計処理等を正確に行う。	②不祥事防止研修や点検シート等で不祥事防止に取り組む。文書等の管理について、正確に実施する。	②マニュアルやハンドブック等に基づき適正な事務処理を行い、管理等を徹底したか。	②月ごとの職員会議において、不祥事防止のﾃｰﾏごとに計 12 回点検を行った。 4月当初に職員必携ﾏﾆｭｱﾙを配付し周知した。また、適正な事務処理が行われるよう、留意するべきﾎﾟｲﾝﾄごとに注意喚起を行った。	②成績処理や年度替わりのときの個人情報に係る文書の管理等、引き続き留意していきたい。	②不祥事防止研修･点検の取組の推進については評価できる。防災の体制について、対策の検討や不備の改善等をお願いしたい。	②大きな不祥事もなく、不祥事防止ｾﾞﾛﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑのとおり実施できた。個人情報に係る文書の管理等が継続課題である。	②令和 5 年度不祥事防止ｾﾞﾛﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを現状に合わせ策定し、引き続き不祥事防止啓発活動を行う。